

milk

知識情報・図書館学類誌

Extra

特別号

2015.10



2015 年度 研究室紹介号

2015 年度 研究室紹介号

知識科学主専攻

後藤嘉宏研究室	002
照山絢子研究室	003
歳森敦研究室	004
松林麻実子研究室	005

知識情報システム主専攻

佐藤哲司研究室	006
鈴木伸崇研究室	007
高久雅生研究室	008
辻慶太研究室	009
手塚太郎研究室	010
Eduard BARYSHEV 研究室	011
緑川信之研究室	012
若林啓研究室	013

情報資源経営主専攻

石井夏生利研究室	014
逸村裕研究室	015
小泉公乃研究室	016
鈴木佳苗研究室	017
Patrick LO 研究室	018
原淳之研究室	019
村井麻衣子研究室	020
吉田右子研究室	021
(敬称略)	

※執筆を承諾していただいた先生方だけの掲載となります。学生を募集する研究室のすべてについては、学類からの掲示などでご確認ください。

「なぜ」という根本的問いを立てる力を

——後藤嘉宏ゼミによるこそ

老眼か？

最近、自分は本を読むスピードが遅くなってきている。「老眼が進行しているのか？」うん。そのことは否定はしない。だけど著名な学者の代表的著作でも突っ込みどころが沢山出てくる。歳を重ねるほど参照する頭のなかの知識や体系が増えてくる。だからいちいち突っ込みをメモする。本読みの速度も年々遅くなる。

ブラックゼミ？

「そんな大家に対する突っ込みと同じことを学部 3 年生に対してするんだ。後藤ゼミは長くなるという噂もほんとうだな」。そう思われる向きもあるでしょう。

でも私だって分別ある大人です。プロボクサーが素手で素人と喧嘩しても凶器をもって闘ったとみなされます。だから、そんなことするつもりはありません。

突っ込みに必要な考え方っていうか、チェック項目として参照される重要な発想は、限られています。

そういう基本的な突っ込みを、皆さんの研究テーマに対して投げかける、これが最初の 2~3 ヶ月のゼミです。1 回 75 分、2 名の発表で順調に流れていきます。

では、後藤ゼミはいつまでもホワイトでしょうか？

ほんと、残念ながらそれは違います。お年を召した私は、ホワイトを望むのに、そうなのはくれない。

どうしてでしょうか？からくりは簡単。

私の突っ込みをみているうちに皆さん自身がそれを真似てきてしまうのです。

「まねぶ」と「まなぶ」は語源的に近いといわれるように、真似ることのできるまにか、そういう突っ込みの方法が身についてきます。

ゼミに入った皆さんが 4 年生に上がる頃には、私が黙っていてもゼミは盛り上がります。

また院生が参加する機会も多く設けます。院生は外様の私と違って、どんどん容赦なく、可愛い後輩に愛の鞭を打ってきます。

岡目八目

後藤ゼミに入ると、批判力の向上は、間違いなく期待できます。批判力は就活でも討論する術として力を発揮します。ゼミでしっかりと批判力を磨いてきたゼミ生は大学院に進むか、郷里の友人に自慢できる一流の就職先をみつけてきます。

しかし、批判力、討論力だけでは、本当は研究には不十分。他人を批判する力はあっても自分を批判する

力はまだ身につけていない。世間一般でも「他人に厳しく自分に甘い人」が普通でしょう。私もその一員です。一方「自分に厳しく他人に甘い人」は尊敬されません。それはそういう人が珍しいからですね。

したがって他人を批判する力が身についたら、つぎにそれと同じことを自分に対してもするように促します。促すといっても特効薬があるわけではない。卒業するまでにはそこまで至らない人もかなりいます。

しかも本当は自己批判だけでも不十分。批判のつぎには対案を作る力も必要です。

でも他人のことはみえているのに、自分のことはみえていない、批判はするが対案は出せない、そういう実例をゼミ現場で多く知ることができます。それで充分です。それぞれのゼミ生が岡目八目、つまり他人の姿はみえて、あら探しも巧みなのに、自分のことについては全然みえていない、そういう姿を晒し合っています。したがって、ぶざまな状況を自覚できるだけでも、将来、一層の成長が期待できるはずです。

求める人材—課題解決能力よりも課題発見能力を

社会学は人間にかかわるあらゆる事象が対象になります。ただし社会学固有の方法というかん見方はありません。それは行為の意味理解という方法です。

とはいえ、やはり対象は広い。間口が広いだけにしっかりと入ゼミ希望者の適性は見極めたいです。それは課題発見能力があるか否かということです。「なぜ」という根本的問いを立てる力です。

みなさまがた筑波大生含め学校秀才は、「どのように」という課題解決能力には長けています。しかし得てして秀才は自分で根本から考える力を失いがちです。行為の意味理解というのはまさに、人の行為について、「なぜ」を問いかけることです。「なぜ」は自分で考え出さなければ意味はない。しかもこの根本的問いを立てる力そのものはゼミだけでは養われません。普段から幼な子や外国人や未来人の眼を自分のなかにもって、身近な人びとや社会を眺めるように習慣づけていくことではじめて生まれてくると思います。

とはいえ課題発見だけに留まっても困ります。つぎにはそれを本当に実現できるか、そこも問われます。やはり「どのように」という課題解決の面は必要です。面白くてもどう考えても実現不可能なテーマもあります。それでは、受け入れは無理です。

でも多少実現の可能性がみえてさえいれば、ゼミでの討論という共同作業のなかで実現できます。

面白い「なぜ」をみつけ出してください。みつけたら、ぜひ後藤ゼミの門「も」叩いてみてください。

照山研究室

1. 概要

現在のメンバー：4年生5名

研究室：517（常駐可。ソファ、PC等あります。）

形式：週1回2限連続でゼミをしています。文献の輪読、調査報告等、担当者がレジュメを作って発表します。長期休暇中はゼミなし（各自じっくりフィールドワークに取り組むことを期待します）。

連絡先：teruyama@slis.tsukuba.ac.jp

2. メンバー募集

基本的には調査の方法として、「フィールドワーク」を伴う研究をサポートします。具体的には：

- 特定の間やコミュニティに所属する人々について研究する。（例）図書館、特定の店や寄り合い場、地域の集まり、自助グループ、患者会、社会運動グループなど
- その場所に何度も出向いて、そこの人々とともに時間を過ごし、一緒に活動に参加したりインタビューを実施したりする。
- 彼らとのコミュニケーションの中から、彼らが共有する文化、価値観、規範などを明らかにしていく。

といった研究を扱います。

◆今年のゼミ生の研究テーマ◆

図書館と市民・医療・行政の連携についての研究ー長崎市立図書館の事例をもとにー
視覚障害者と大学図書館の取組み 大学図書館のニーズとサービスに着目して
商店街を振興する人びとに関する人類学的研究
図書館海援隊のビジネス支援を中心とした図書館の課題解決サービスの可能性
ディスレクシア当事者は図書館に何を求めているかーフィールドワークを通じた考察ー

3. ゼミ生からのメッセージ

「新しい研究室なので環境はあまり整っていないですが、その分自分たちで作り上げていく楽しみもあると思います。」

「自分のやりたいことを尊重してやらせてもらえます。朗らかな雰囲気の実験室です。」

「研究テーマはバラバラだけど、だからこそ、ゼミでは色々なコメントを交換できてるんじゃないかな。」

「ゼミは、みんなで話し合っ理解を深めていきます。気軽に自分の意見が言えて意見交換もできる環境です。」

「聞き取り調査で人と話したりすることが多いかも？アクティブだけど、研究室にいるときは穏やかでのんびりです。」

歳森研究室

歳森敦:

tosimori@slis.tsukuba.ac.jp

研究テーマ

知識や情報の流通・利用に係わるサービスに対する個人の意識や行動の計量的分析

現代に生きる我々は、人から聞く、テレビで見る、新聞で読む、ネットで調べる等、いくつもの方法で情報を得て、知識を獲得します。このような情報源の選択や情報の評価の際の人間の行動と意識を量的調査の実施とその計量的な分析から解明していきます。

研究テーマは、着手発表までに、週 1 回のゼミで各自が研究テーマ案を発表し、先生とディスカッションする中で研究テーマを決定します。歳森研究室では、学生が希望する研究テーマを持ち込んで、歳森先生が「おっけー」といえば、何でも研究できます。持ち込んだ研究テーマがそっくりそのまま採用されることはありませんが、今までに歳森先生の口から「ぜったいだめ」という言葉は聞いたことがないので、きっと一緒に考えてくれているのだと思います。

研究室の雰囲気ですが、研究室としてまとまっているというよりは、自由に生活しているという感じです。もちろん、飲み会や研究室旅行もあるので、ゼミ生同士の仲はいいと思います(きっと)。

「歳森研は面談を受けなくてもいいから」という理由で希望した人もいますが、研究室との相性もあると思うので面談を受けてみてはいいかがでしょうか。その時に、具体的な研究テーマが思いつかなくても、方向性さえあれば、ゼミを通して何とかなるのではないのでしょうか(きっと)。もちろん、ゼミの見学はいつでも受け付けているので、ご希望のかたは歳森先生にメールしてください。

■ 学生研究室

7B140

■ 学生 (2015 年度)

博士前期課程: 3 人

学類 4 年生: 4 人

■ ゼミ (2015 年度)

週 1 回 2-3 時間くらい

■ 卒業後の進路

Accenture

NEC ソリューションイノベータ

NEC 特許技術情報センター

茨城県中学校教員

大学院進学

■ イベント

飲み会

ゼミ旅行(合宿ではない)

MATSUBAYASHI

Social Informatics

Laboratory



思考せよ！ 社会×情報×メディア

□MSIL とは

MSIL は、社会（もしくは個人）と情報、情報メディアとの関係について考える研究室です。現在、博士課程前期 1 年次 3 名、知識情報・図書館学類 4 年次 3 名（知識科学主専攻 2 名、情報資源経営主専攻 1 名）の計 6 名で活動しています。

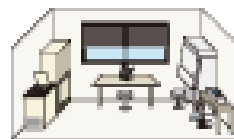
MSIL では、とことん考えぬいてみたい人を広く募集中です。まずは松林（mamiko(at)slis.tsukuba.ac.jp）までご連絡ください。

□研究テーマ

社会（もしくは個人）と情報、情報メディアとの関係について考えるものであれば、どのようなものでも MSIL の研究活動になりえます。これまで「電子書籍と紙の書籍の読み方の違いに関する実験」「レファレンス質問と QA サイトの質問における差異」「研究費助成機関と学術雑誌出版

との関係」等の研究テーマが取り上げられてきました。中には「新書の構造の変化について」「サッカーの試合におけるチーム内のコミュニケーション」などのユニークなテーマを取り上げた人もいます。

自分が考えたテーマが研究になるかどうかわからないという人は、とにかく一度話に来てみてください。



□ゼミの運営方法

学期中は週 1 回のペースで定例ゼミを行います。MSIL では、ゼミ全体での活動を重視します。ただし、同時に個別面談も行っていますので、一対一で指導を受けたい人にも参加していただけるようになっています。

コンテンツ工学研究室



コモディティ化について考えたことがありますか？石鹸やシャンプーのように広く普及し一般化した商品は、洗浄力という本来の機能では差別化が困難になることを言います。携帯電話・スマホもコモディティ化が進み、物だけでなくサービス・情報も『**使い捨て消費財**』になってきています。

佐藤研究室では、新たなサービスを創出する社会的な資本（ソーシャルキャピタル）の形成・変容過程を、機械学習や確率・統計などの工学的なアプローチによって解明することに取り組んでいます。他にも、学習支援・健康支援、映画や図書などの情報推薦など幅広く研究しています。

ソーシャルキャピタルの形成と変容

信頼・規範・ネットワーク



情報革命

21世紀～

情報の大量生産→知的豊かさ
ソーシャルキャピタルが拡大再生産の源
1993年 ロバート・パットナム(政治学者)
人々の協調行動を活発にする
社会的仕組み

コミュニティの形成過程の解明
参加者のモチベーション変容の解明
→ **ウェブサイエンス**

産業革命

18世紀～

物の大量生産→物的豊かさ
キャピタル(資本)が拡大再生産の源

農耕革命

紀元前1万年～

食料の増産→人口急増



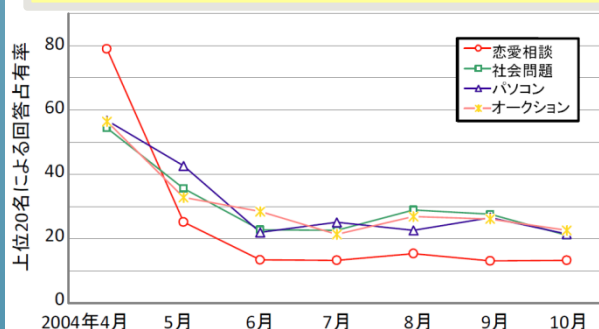
コミュニティの形成過程

コミュニティQA (Y!知恵袋)の経時的変化を観察

仮説: 若いコミュニティは特定の参加者が発言

調査: 第一回答者が特定の参加者に限られるか

結果: いずれのカテゴリでも、上位回答者の占有率が徐々に低下 → 2ヶ月後には安定 → 回答者コミュニティが形成・成熟



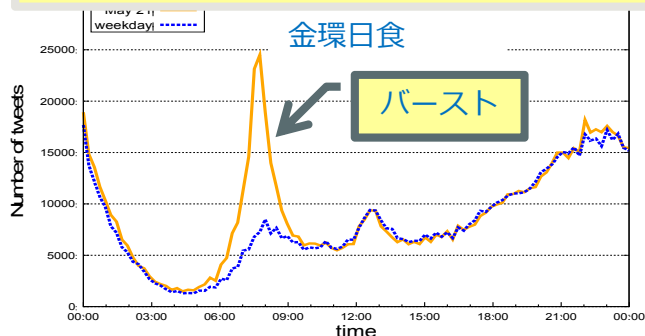
ツイッターユーザの情報行動

200億件越(32百万UU)ツイートを解析(1.5年, 7TB)

バースト: 複数ユーザの投稿が重なる時間帯

仮説: バーストが重なるユーザは興味も近い

結果: バースト期間の重なりを手がかりとしたユーザプロフィールの抽出に成功、情報行動が類似したユーザの推薦に道を拓く



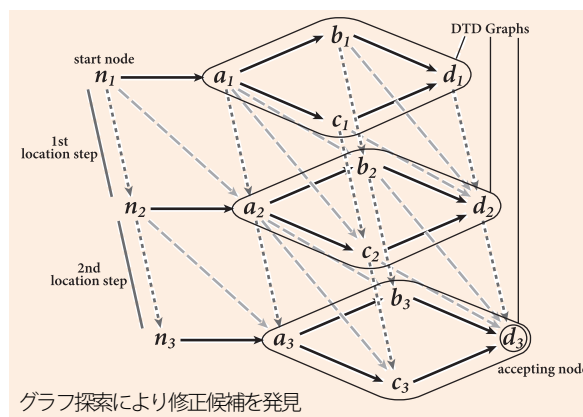
当研究室は、グラフデータや XML/HTML など、「構造を内包するデータ」を中心に研究を行っています。以下に主な研究テーマを示しますが、これに限定されるわけではありませんので、老若男女を問わず意欲ある方を歓迎いたします。

グラフ検索アルゴリズム | Search Algorithm on Large Graph

近年、大規模なグラフデータが急速に増加しています。小規模なグラフデータを検索するのは比較的容易ですが、大規模なグラフデータは必ずしも主記憶に収まりきらないため、効率のよい処理が困難です。当研究室では、外部記憶アルゴリズムの技術を応用して、大規模グラフデータを効率良く検索できるアルゴリズムなどについて研究しています。

XPath 式の自動修正 | XPath Query Correction

「問合せ式を書いて実行してみたものの、期待した実行結果が得られなかった」ということがよくあります。当研究室では、XML の標準的な問合せ言語 XPath を対象に、スキーマに適合しない XPath 式を正しい式に自動修正するアルゴリズムを開発しています。構造的に正しい XPath 式は通常複数存在するので、グラフ理論を応用し、ユーザの記述した式に近いものから順にユーザに提示できるようアルゴリズムを構成しています。



XML スキーマ進化 | XML Schema Evolution

一度作成されたデータが元の構造を保持し続けることは少なく、ユーザの要求や利用環境の変化に応じて更新されていくのが一般的です。XML のスキーマが更新された場合、対象とする XML データの構造も変化するため、それまで使用されていた XPath 式や XSLT を修正する必要性が生じます。これは通常手作業で行いますが、当研究室では、スキーマの更新によって XSLT 変換が影響を受ける箇所の自動検出や、スキーマ更新に応じて XPath 式を自動的に修正する手法などを開発しています。

その他 | Other Topics

上記に加えて、MathML 数式検索、電子書籍(EPUB)、HTML5 による iPad アプリの作成などを行っています。お気軽に下記までお問い合わせください。

指導教員：鈴木伸崇 <nsuzuki@slis.tsukuba.ac.jp>

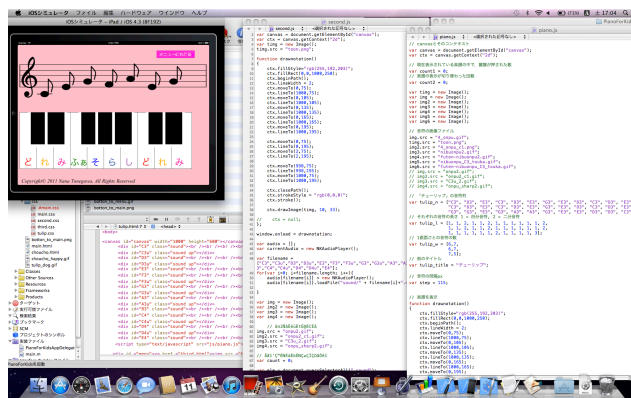
研究室（教員）：7D204

研究室（学生）：ユニオン 3F 学系共同研究スタジオ 3

ゼミ：学類（週 1 回）、大学院（週 1 回）

曜日・時間は皆で相談

研究室 Web：http://nslab.slis.tsukuba.ac.jp/



iPad アプリ(読譜学習)の開発画面

高久研究室の紹介

研究室Webサイト: <http://www.slis.tsukuba.ac.jp/takaku-lab/>

- 教員: 高久 雅生 (たかく まさお)
- 研究室 (居室)
 - 教員: 7D208室
 - 学生: 7D221共同研究室
- 学生数 (2015年度): 9名 (B4: 4名, M1: 3名, D1: 1名, 研究生: 1名)
- ✓ 図書館情報学と情報学の融合領域の真ん中を扱う研究室です。
- ✓ 「ひとの知的活動をアクティブに支援すること」を目標に, システムの構築や新しいアイデア, 実装の提案といったアプローチによる研究を行っています。
- ✓ こんなひとにお勧め
 - 情報システムの力を借りて課題を解決してみたい
 - 情報検索や探索支援のための新しいシステムやタスクのアイデアがある
 - 電子図書館サービスのための新しい機能やアイデアを実現してみたい

情報探索行動

情報探索行動とは, ひとが情報を求めて行動する様子を追跡し, それらにかかわる要因をモデル化し, 探索支援システムへの応用等を図る研究領域です。近年では, ウェブ環境下での記録機器, ソフトウェア等の発達により, より精緻に情報探索の過程を計測し, 情報アクセスのために役立てることが期待できます。

高久研究室では, 探索過程の記録や, 探索記録からの知識発見, 探索者の知識変容の様子を捉える方法論の開発を目指して研究しています。

電子図書館

電子図書館は, 既存の図書館サービスをデジタル資料やICTツールを用いて補完, 強化し, 新しいサービス機能を実現する研究領域です。情報検索やエンティティ同定, 情報推薦, 可視化, 利用者行動の分析等の隣接領域の手法を応用したり, 現場のニーズに基づいてサービスの分析や精緻化を行う役割が求められています。

高久研究室では特に, 検索機能の向上, Web APIマッシュアップによる新しい機能の提案, デジタルアーカイブズの利活用といった研究テーマのもとに電子図書館の実現に取り組んでいます。

情報検索

情報検索とは, 対象文書群を適切に索引付けし, 利用者の情報要求に基づき, ニーズを満たす適合文書を的確に返すための手法にかかわる研究領域です。利用者の情報要求の分析, 文書構造の同定, 文書の索引付け, 文書ランキング, 検索結果の評価等の手法に多くの研究課題が存在します。近年では特に文書種類や情報要求の多様化と高度化が見られ, ますます多くの研究が必要となっている研究領域の一つです。

高久研究室では, 対象文書のジャンルを特定した検索システムの構築や, 新しい検索手法, 検索評価手法の開発を目指しています。



連絡先: 高久雅生

- Email: masao@slis.tsukuba.ac.jp
- Twitter: [@tmasao](https://twitter.com/tmasao)

辻慶太研究室

1. ゼミについて

- ゼミは週 1 回 1～2 時間です。
- 現在のメンバーは学類生 2 名，博士前期課程生 1 名，後期課程生 3 名，研究生 1 名です。
- ゼミ部屋は 1 階の 7B140 です。階段を上らなくていいというのが辻研最大の魅力です。

2. 研究テーマ

私はこれまで以下のテーマで論文を書いてきました。見事にバラバラです。大もとに一貫した問題関心があるわけではなく，流行に合わせて楽しそうな研究をしてきました。

- (1) 図書館の利用量を増加させるラーニング・コモンズの要素の特定 (2014 年～2015 年)
- (2) 貸出履歴等を情報源とした機械学習による図書推薦システムの開発 (2011 年～2014 年)
- (3) 公共図書館のレファレンスサービスと Q&A サイトの正答率比較 (2009 年～2011 年)
- (4) 司書資格取得者のその後の人生に関する追跡調査 (2006 年～2008 年)
- (5) 対訳コーパスを用いた多言語シソーラスの自動構築 (2002 年～2005 年)

卒業研究もやりたいことを自由にやってもらっています。過去の例は以下の通りです。

2015 年度	2013 年度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館における飲食の可否に関する実態調査 ・ 「カリスマ主婦」から見る女性のライフコース選択 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 穴埋め問題自動作成システムの構築 ・ ネット選挙解禁に伴う SNS の活用と選挙結果 ・ 書籍カバーの読書活動推進効果
2014 年度	大学院生の研究例は以下の通りです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共図書館におけるレファレンスブックの所蔵状況 ・ 公共図書館におけるマンガの所蔵状況 ・ 3 年次編入の有効性に関するアンケート調査 ・ うろ覚え図書の検索に向けた基礎調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国会図書館におけるポルノグラフィの納本状況 ・ 有害図書データベースの試作と有害図書の分析 ・ Twitter 上の疑問を収集し回答を呼びかけるサイトの構築 ・ 指定管理者制度導入館と直営館のサービス比較

3. その他

- 階段を上らなくていいというのが辻研最大の魅力ですが，2 番目の魅力として過去の調査研究で用いた有害図書が読み放題という点が挙げられます。
- 無数にある辻研の短所の 1 つに「お金がない」というのがあります。国際会議でバリバリ発表したい（もちろん人のお金で）という方は他の研究室に行きましょう。



足腰に優しい立地



充実した有害図書

手塚研究室の紹介

手塚研究室では確率論や統計学を利用してデータから有益なパターンを発見し、構造化された知識を得ていくプログラムの開発を行っています。センサ技術や通信ネットワークの発展によって膨大な量の電子的なデータが蓄積されている現在、これらの手法には幅広い応用があります。具体的な研究対象として、特に画像と神経細胞の活動データ(時系列データ)を主に扱っています。

研究室では毎週、輪講やゼミを行っています。輪講では基礎的な技術に関するテキストを用いて学生が順に発表し、理解を深めています。ゼミでは各自の研究に関してディスカッションを行い、問題の解決に向けての検討を行っています。夏休みの旅行やスポーツイベント、鍋などを通して研究室内での親睦を深めるようにもしています。データを解析する力、問題について深く考え、解決を模索する力は実社会に出ても必ず役に立つと思います。

研究室Webページ: <http://xi.kc.tsukuba.ac.jp>

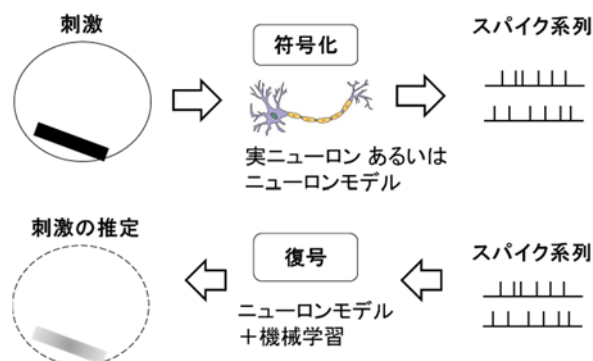
画像認識とオブジェクト認識

従来の画像検索システムでは色彩や形状の類似に基づいて検索を行っていましたが、「何が映っているか」というオブジェクト認識を可能にすることで、より精度の高い検索システムを実現するための研究を行っています。



神経活動データの解析

神経細胞間ではほとんどの情報が活動電位（スパイク）によって伝えられるとされており、脳における情報表現の理解においてスパイク系列の解析は欠かせません。スパイク系列の間に類似度や距離を定義する研究は以前から行われていますが、近年ではより一般的な二変数関数であるカーネルをスパイク系列上で定義する手法が提案されています。手塚研究室ではこれまで研究されてきた単独のスパイク系列に対するカーネルではなく、多数のスパイク系列（多チャネルスパイク系列）上のカーネルについて研究を行っています。



アーカイブズ学研究室

Archival Science Room

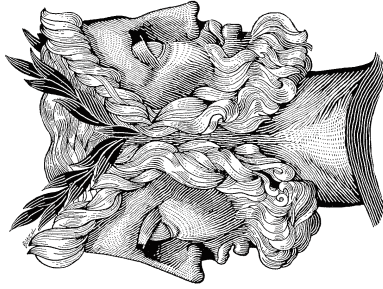
指導教官プロフィール

バーレイシエフ、エドワルド (Eduard BARYSHEV)

7D415 研究室、内線 1347、baryshev@slis.tsukuba.ac.jp

研究分野 (指導可能な分野) :

- * アーカイブズ学理論全般、
- * 各国の文書館論、
- * 国家機関 (省庁) 内の記録管理論、
- * 保存記録の管理・利用に関わる諸問題、
- * 記録媒体と情報処理、
- * 保存資料 (史料) と歴史学



古代ローマの双頭神ヤヌスのように、過去と未来を同時に見詰めているアーカイブズ学

WHAT ARE ARCHIVES?

① 永久保存のために選別され、特別な施設で一定の国家機関・社会团体や個人の活動の証言として保存されている記録資料の総称、② 上記の記録資料が保存されている機関および施設
⇒ 社会的な進化とともに変容し、多様化してしまったアーカイブズは、今日、「国家や国民の生活から生まれた過去の諸データ」として再定義されつつあります。



保存記録 (アーカイブス) の管理および利用の様子 (イギリス国立公文書館、ロンドン)

今日の社会が抱えている諸課題と対応策

今日の情報時代において、アーカイブズは再び社会の注目を帯びています。公文書やその他の記録資料の電子化、情報技術の普及等がアーカイブズの「通俗化」を促成し、社会科学の在り方を変えていると同時に、様々な問題を引き起こしています。

特に、情報資源の多様化およびその断片化は、記録資料の利用を困難にしているため、情報の分類整理やその管理事業が次第に重要性を増しています。国際的・地域的にみれば、アーカイブズの管理状態には、電子化の度合い、アクセス基準などに顕著に表れているような格差があり、それも情報資源の効率的な使用を妨げています。

この状況下において、日本の国内や国外における記録管理・保存に関する現状を学ぶことにより、「国民の記憶」として位置づけられる記録管理の水準向上を目指すことは大きな社会的な意義が認められる。

研究・指導方式

- 「新しくできたこと」、そして「少人数」というアーカイブズ研究室の特徴を生かし、学生のニーズに合った個別的な指導を行っていきます。
- 隔週、ゼミ方式の授業 (2 時間程度) を行うとともに、個別で相談できる時間を設けます。

人類が今まで作り出した諸記録の遺産に関心をもち、過去、現在および未来における「文書」の在り方について学び、国際色のある独創的な研究に取り組んでいきたい人を、研究室で待っています。

Dear students, I am waiting for your coming!

緑川研究室

私の研究室では情報組織化論，特に，分類の研究を行っています。分類とは，同じ性質をもつものどうしを集めること，あるいは，異なる性質をもつものどうしを分けることです。分類に関する研究には，分類するという行為に関わる研究と，分類されてできるものに関わる研究があります。

分類という行為に関する研究として，たとえば，弓道のわざを獲得する過程におけるカテゴリの使用という卒業研究がありました。弓を引くときの手順を足踏み，胴造り，弓構え，打起し，引分け，会，離れ，残身と8つに分け，さらに足踏みを，的の中心を見定める，無理な力を入れないように注意する，などの行為に分けます。これらの行為を「見る」，「入れる」，「反らす」などのカテゴリに対応づけることによって，わざを獲得する過程でどのような意識が働いているのか（どのようなカテゴリの行為を選択しているのか）を考察しています。

分類されてできるものに関する研究はいろいろありますが，たとえば，本の推薦システムにおけるカテゴリの有効性に関する修士論文がありました。アマゾンのデータを利用して，アマゾンの推薦本を被験者にそのまま推薦する場合とカテゴリを考慮して推薦する場合との比較，また，後者において考慮したカテゴリを利用者に提示する場合と提示しない場合の比較を行いました。この研究では，分類されてできるカテゴリが，本の推薦にどのような効果を及ぼしているのかを考察しています。

分類されてできるものの代表として分類表がありますが，分類表に関する研究も行われています。落語の検索システムに役立てるために，落語の噺の種類とオチの分類表を作成した卒業論文がありました。噺の種類は，「扱う世界（野外，家の中，寺，死後の世界など）」，「登場人物の身分・職業（番頭，武家，丁稚，医者など）」，「登場人物の性格・性癖（酒呑，粗忽，強情など）」，「噺の主題（金，道楽，人情，旅など）」などいくつかの観点から分類表を作成しています。また，オチについては，「間抜けオチ」，「地口オチ」，「途端オチ」，「オチなし」などの項目からなる分類表を作成しています。

私自身は図書館分類法の研究を行っています。特に最近は図書館分類法の歴史が主な研究テーマです。一方，図書館分類法研究の新しい動向としてオントロジに関連する話題があります。シソーラスなどに適用できるように開発された一種のオントロジ記述言語 **SKOS** を用いて図書館分類法を表現する研究を，現在，博士論文で行っている人がいます。図書館分類法を **SKOS** で表現することにより，**Linked Data** として **Web** 上で活用しやすくなります。

以上のように，分類の研究はとても幅が広いものです。

若林研究室

指導教員: 若林啓

場所: 7D230

研究室 HP: <http://wkblab.github.io>

2015 年度
メンバー構成

M1: 3 名

B4: 5 名

計 8 名

研究テーマ

私たちの身の回りには、膨大な量の情報が溢れています。今後、社会はどんどん複雑になり、私たちが仕事として処理しなければならない情報はますます増加していくでしょう。私たちは情報処理に忙殺される危機に直面しています。

若林研究室では、大量のデータから本質的な知識を抽出する機械学習手法と、これをベースにした人工知能の研究を行っています。子どもは、周囲の人が話す言葉を手がかりに自力でことばを学習していきますが、この過程では統計学習が行われていると言われています。統計的機械学習手法を発展させ、文章の意味をより深いレベルで認識させることで、高度な知識抽出や対話システムなどの実現を目指すことが本研究室のテーマです。

研究をすすめる上で望ましい条件

- 1 実装能力がある。あるいは実装能力を身につけたいという熱意がある
- 2 必要なら数式にも立ち向かっていける

研究室の見どころ

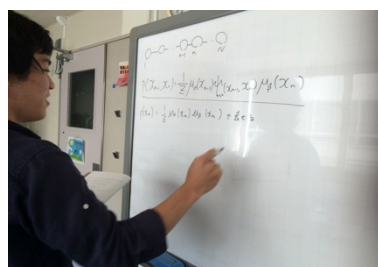
- 1 アットホームな雰囲気で作業ができます！
- 2 研究環境が充実しており、PC(Mac Book)の貸し出し有り！
- 3 機械学習に触れることができる！
- 4 必ず誰かが研究室にいる！（一人じゃない）

活動内容

- 1 週一回のゼミ(進捗報告など)
- 2 自主的な輪講
- 3 他の研究室との合同合宿
- 4 新メンバー歓迎会



<http://wkblab.github.io>



輪講の様子



打ち上げ

情報法研究室

1 研究室の概要

石井研究室では、情報に関わる様々な法的問題を研究しています。日本には「情報法」という法律はありませんが、個人情報保護法や著作権法のような、耳にすることの多い法律から、電気通信事業法、景品表示法、プロバイダ責任制限法、電子消費者契約法、特定商取引法、リベンジポルノ禁止法のような、あまり馴染みのない法律まで、民事法・刑事法・行政法の多岐にわたる法律が情報法のカテゴリに含まれます。最近では、マイナンバー法が話題になっていますが、この法律も情報法の 1 つです。また、法学研究を行う上では、実務を動かす判例の動向を研究することが非常に重要です。

情報技術が高度に発展する中、情報に関わる法的問題も様々な場面で生じています。法学は地味な研究分野ですが、石井研究室では、皆さんに好きなテーマを選んで頂き、自立心を持って研究に取り組んでもらっています。

2 活動

1) 指導体制等

石井研究室では、学期中は 1 週間に 1 度のゼミを行っていますが、指導学生の就職活動の都合などに応じて、個別指導も随時行っています。卒研発表会の後は飲み会も行っています。法律系のゼミですので、公務員や教員志望の学生が比較的多いと思われがちですが、民間企業に就職する学生も多く在籍しています。

2) 居室

・石井：7D509

・共同研究室：7D540(2015 年 9 月 1 日現在)

3) 卒業研究テーマ(平成 25 年度以降)

・平成 27 年度

サイバー犯罪に関する刑事法的考察

インターネットにおける実名制導入の是非

インターネットにおける事業者情報の名誉棄損に関する考察

・平成 26 年度

図書資料の規制と図書館の自由—プライバシー権侵害を中心に—

日本における文化的活動の保護と制限をめぐる考察—文字・活字文化を中心に—

インターネット上の個人情報の削除請求権

パブリシティ権の法的性質に関する考察

・平成 25 年

違法・有害情報とインターネット上の青少年保護

秘密保全法の意義と課題

3 連絡先

kaoriish@slis.tsukuba.ac.jp

逸村研究室紹介

逸村裕（いつむら ひろし）教授

研究室

大学図書館、学術情報流通、情報探索行動、オープンアクセスを研究テーマにしています。

ゼミのやり方

大学院生、学類生と一緒に週1－2回ゼミ活動を行います。春日に加え、東京キャンパス文京校舎をメインとする大学院生が多数います。春夏に行われるゼミ合宿参加者は40名近くにもなります。

ゼミのスケジュール

12月～	3年ゼミ生顔合わせ テーマ決定のための先行研究調査、手法確認、ゼミ発表
3月初旬	春ゼミ合宿
4月～	進捗進捗進捗
9月初旬	夏ゼミ合宿
10月～	進捗進捗進捗
12月	卒論完成！



ゼミ生顔合わせ(上)とゼミ合宿の様子

過去の卒業研究テーマ

- ◆ 大学院進学者の大学院に対する情報行動
- ◆ 大学図書館における図書館利用教育が新入生に与える効果
- ◆ ソーシャル系大学参加者の学習に与える要因の分析
- ◆ 日本の公立図書館における音環境
- ◆ 大学図書館の資料保存
- ◆ 何故ラーニングコモンズを利用しないのか？
- ◆ 学術情報流通におけるオープンアクセスの実態
- ◆ 大学図書館蔵書の貸出傾向：経年変化の主題別比較
- ◆ 学生の知識創造における大学図書館の役割
- ◆ PC利用場所としての図書館選択理由
- ◆ 日本の学術情報流通の現状
- ◆ 現代日本における高等教育について

ゼミ生から(情報資源経営：榎本翔)

ゼミ生から見た逸村研究室の特徴です。

1. 大学院生がたくさんいる

現在、学類生4人に対し、大学院生は社会人を含めて25人います。研究の指導や進学に関する情報が手に入るのはもちろん、就職においても多くの体験談を聞けます。

2. 研究テーマが幅広い

逸村先生の守備範囲は広く、いろいろな研究テーマが扱われています。研究室選別に迷ったら逸村先生に相談してみてもいいのではないでしょうか。

3. ゼミ合宿がとにかくすごい

ゼミ生以外にも教員・図書館員等多くのゲストが参加されます。質疑応答は厳しいですが、環境設備食事はすごい…百聞は一見にしかず、です。

図書館・公共経営研究室

【教 員】小泉 公乃

【所 属】筑波大学図書館情報メディア系

【オフィス】春日校舎7D310 【メール】koizumi@slis.tsukuba.ac.jp

研究・学習領域

公共圏

図書館における公共圏とは何か

パブリックガバナンス
(公共経営)

地域コミュニティにおいて、
図書館はどのような意義があるのか

図書館経営

図書館に固有の経営・サービスをどのように未来の地域のイノベーションに活かすのか

公共・大学図書館と地域コミュニティについて
本気で研究・学習したい人たちのための研究室
～現役の図書館員の方々もゼミに参加し研究に励んでいます～

- ・配属を希望する学生は必ず事前に連絡し、個人面談を受けてください
- ・ゼミの内容はゼミ生の希望も考慮しますが、基本的には卒業研究の前に、何らかのグループ研究をおこなってもらいます（ゼミ合宿あり）

メディア・インタラクション研究室

今日、私たちはメディアを通じて映像やコミュニケーションを楽しんだり、多くの有用な情報を得たりしています。一方で、有害な映像コンテンツや情報に触れたり、トラブルにあう機会が増えたりするなどの危険もあります。本研究室では、個人のメディア利用、図書館や学校などのさまざまなメディア環境の現状と課題、メディア利用やメディア環境が及ぼす影響などを検討しています。

このような研究を通して、メディアの悪影響を避け、有効に利用していくためには？、より快適なメディア環境を整えていくためには？などについて考えていきます。

🌿 教員： 鈴木 佳苗



🌿 学生： 学類生 3 名（情報資源経営主専攻）・大学院生 4 名

🌿 研究テーマ： 「読書やインターネットなどのメディア利用の影響」「メディア教育の実践とその評価」「学校や地域における子どもと読書にかかわる取り組みの実践と評価」「児童図書館サービスの現状と課題」などがあります。

🌿 研究室 Q & A （A.：学生）

Q1. ゼミについて

A. 大体週に 1 回のペースでゼミがあります。参加メンバーはそれぞれ発表用の資料を準備します。ゼミの雰囲気はなごやかです。ゼミ以外に先生に個別に研究の相談をすることもあります。

Q2. 研究室について

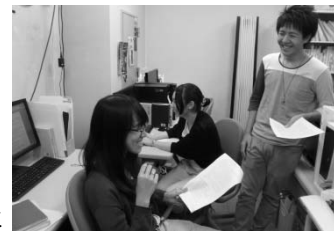
A. 研究室には各メンバーが使用できる PC があります。インターネットも問題なく使えます。大きな机もあるので、研究の議論もできます。

Q3. 卒業研究について

A. 最近、絵本にどのような内容のものがあるのかなど、調べています。授業で学んだことを改めて自分で調べてみると、理解が深まります。

A. 外部の機関（図書館）に研究協力を依頼しました。最初は緊張しましたが、電話のかけ方、手紙の書き方など、コミュニケーションスキルも鍛えられたと思います。

A. 「研究は日々の積みかさね」だと実感しています。
今、研究に使うメディアコンテンツなどについて調べています。これまでの経験や、資料や文献を読んで得てきた知識を研究に活かしていきたいと思います。



ある日の鈴木研究室

🌿 研究紹介（参考 URL）：

<https://www.tsukuba.ac.jp/public/booklets/forum/forum80/O4.pdf>



Patrick LO 研究室

研究分野・最近の研究

香港から来た Patrick LO 先生の研究分野は比較図書館学である。最近の研究テーマは芸術専門図書館、音楽図書館など。ゼミ生は言語的背景があり、みんな多文化好きで、国際的な研究に興味がある学生だ。

最近のゼミ生の研究テーマ

1. インドネシアの刑務所図書館研究
2. 電子社会における図書館利用教育の重要性
3. 市立図書館の社会や文化機能評価—香港、台湾、日本と中国の比較研究—
4. 大学図書館カフェの社会、教育と娯楽の機能評価

I have recently published a new book with the City University of Hong Kong Press, entitled: *Preserving Local Documentary Heritage—Conversations with Special Library Managers and Archivists in Hong Kong*. (背景参照)

Toycie Deng (experience as research student under Dr. LO's supervision):

私は去年の10月に中国から筑波大学に留学しました。当初は筑波大学図書館情報メディアの研究生として勉強していました。指導教官は Patrick 先生です。

Patrick 先生のご指導の下での約1年間にわたる研究生生活の中で、図書館情報学、特に図書館学にとっても興味を持ちました。Patrick 先生は図書館学の比較研究を多く行っているのので、先生の影響を受け、私も比較研究に対して興味を持つようになったのです。今、私は図書館カフェのことを研究しています。カフェと言うと、結構幅広い研究範囲ですよ。Patrick 先生のアドバイスを受け、図書館カフェの役割について深く研究していきたいです。

図書館カフェの役割については、教育面、娯楽面、社交的側面から明らかにしようと思います。最初の段階は文献検索ですが、図書館カフェに関する日本語の文書、論文はとて少ないですし、欧米にもこの研究に関するものは多くはないです。文献を読み、この研究にも少し明るくなりました。次の段階はデータ収集です。この2つの段階の勉強を通じて、この課題に対する理解も深まりました。特に、図書館空間構築とサービスにおいて、カフェは新しい存在なのだという発見を得ました。

そして、Patrick 先生の研究室は今留学生の4人が在籍し、毎週ゼミ討論を行っています。内容は自分の研究内容に関することです。しかし、他の研究室と違い、Patrick 先生の研究室は教室や研究室で行うわけではなく、好きなレストランでリラックスした雰囲気で行います。



原 研 究 室

◆研究内容はどんなものですか？

指導教員の原 淳之です。私たちの研究室には、図書館や読み（リテラシー）の問題を社会的な文脈で考えることに興味がある学生が集まっています。例えば、ハリー・ポッターはなぜ多くの読者を獲得できたのだろうか、「読書ばなれ」と言われて久しいが、具体的に「読書ばなれ」とは何のことを指し、「対策」はどのような発展を見せたのか、なぜ 18 世紀のイギリスでは女性読者が大幅に増加したのだろうか、戦時中に実施された児童書に対する国家の統制はどのようになされたのかなどです。

その他、最近ビジネスパーソン向けに読書を勧める本（日経 BP ムックなど）が多く出版されています。ビジネス関係の読書会も盛んですが、なぜでしょう。また、こういった社会状況に対して、図書館は何ができるかを考えても良いと思います。そのような問題意識から始まる研究もあります。

◆卒業研究ってどんなふうに進めるんですか？

研究方法は質的な研究方法や量的な研究方法、明らかにしたいテーマによって何がふさわしいかを考えながら進めています。テキスト（文章）を使って語彙の分析をしたり、インタビュー調査をしたりもします。ただ、そのさい客観的な研究とは何かを考えながら進めていきます。みなさんはレポートを書くときに、感想のような考察に陥ったことはありませんか。研究ではそうならないように注意しなくてはなりません。研究方法が多様であるせいか、研究室には高校のときの文系／理系を問わず、どちらの学生も所属しています。

研究指導は週 1 回のペースで行うゼミが基本です。全員が集まっての研究報告やディベートなど。その他、個人指導をすることもあります。研究テーマを相談しながら決めたり、その方法をみんなで考えたり、進捗状況を報告し合ったり、発表会前にはみんなでプレゼンの練習も一緒にします。

あと、指導教員の私はドイツのテュービンゲン大学日本文化研究所やベルリン＝フンボルト大学の図書館で仕事をすることがあり、その経験からドイツに出張することも何度かありました。ドイツの図書館は日本とはかなり異なっています。そのことに興味がある学生もいましたら相談して下さい。



▲原研究室 4 年生 5 名、卒業研究の着手発表会を終えて！

◆研究室的雰囲気は？

研究室的雰囲気は明るくて賑やかです。卒業研究の活動の他、毎年《楽しい企画》もあります。いまの 4 年生は 3 月にスキー旅行に一緒に行き、6 月にバーベキューもしました。ところで、《ゼミ生の就職先》ですが、国立大学法人等職員（図書、事務）、独立行政法人の職員、県や市や村といった地方公共団体の公務員（図書館員を含む）の他、公益法人や企業の人事や SE など、先輩は北海道から九州まで幅広い地域で仕事をしています。研究室に訪ねて来てくれる先輩もいるので話を聞くことができます。

◆他に学生に伝えたいことは？

研究室訪問では、いま考えている研究テーマがあればそれを聞かせて下さい。自分が興味を持っていることを聞かせてもらえれば、そこから相談しながら研究テーマを一緒に考えていくこともあります。

研究室訪問の期間中には気軽に相談に来て下さい！研究室訪問を希望するメールを送ってもらえれば、面談のための時間についてお返事します。

◆ゼミ生による研究室紹介

― 気兼ねなく発言できる雰囲気 ―

私たちの研究室は週に 1 回みんなで集まるゼミがあります。ゼミの後もみんななかなか帰らず、もろもろの雑談をワイワイ楽しくやっています。4 年生になると授業がほとんどなく、なかなか学類の友達と会うこともなくなってしまうので、週 1 でおもいっきりおしゃべりをし、良いストレス発散になっています。私は都内で企業に就職活動をしてきましたが、面接の場で自分の卒業研究のことや最近の出来事を聞かれることが多くありました。卒業研究の説明はゼミ内で随分やってきたおかげでスラスラと話すことができましたし、みんなで話した内容は研究に関わりのないことでも良い話の種類になりました。悩んだり挫けそうになった時も、みんなに話を聞いてもらったり、応援してもらったり。就活を無事に切り抜けられたのはこの研究室だったからだと今でも過言ではないです！

また、私たちは《よく遊びよく学べ！》をモットーに楽しい企画もたくさん立てています。今年 3 月には新潟にスキー旅行に行きました。この旅行は雑談でポロっと出た話が盛り上がりつつ実現したものです。6 月には他の研究室の友達も誘ってバーベキューをしましたし、研究室のメンバーの誕生日にはケーキを用意して誕生日パーティーも行っていました。何かやりたいことを言うと先生も含めた全員が聞いてくれて、積極的に持ちかければどんどん実現します。このように、研究に関することでも、雑談であっても、自分の意見を気兼ねなく発言できる雰囲気が原研究室の何よりの魅力なのではないかと思っています。

（原研究室 4 年生 武田未来さん）

著作権法の研究室

研究室について

著作権法を中心に、知的財産法（特許法、商標法、不正競争防止法など）に関する研究を行います。研究手法としては、判決や論文等の文献に基づいて、条文等の解釈論、あるいは立法論や制度のあり方を論じます。原則として、学期中週1回ゼミを行います。ゼミでは、各自の研究成果を報告してもらい、報告内容について議論を行います。

主専攻：情報資源経営主専攻

指導教員：村井麻衣子

募集人数：3名

現在のメンバー（2015年度）：博士前期…2名 学類…4名

著作権法の研究とは？

著作権法は、情報の一定の利用行為を規制するものです。そのため、権利者の利益と利用者の利益のバランスをいかに図るかが課題となります。法律のあり方は、社会的・技術的な環境により大きな影響を受けます。現代の社会にとって、よりよい著作権法とはどのようなものか、皆さん自身で考えてみてください。

研究テーマの決め方

自分の興味のあるテーマを選んでください。判例評釈（特定の判決についての解説）を書くつもりで一つの事例（判決）を中心に検討してもよいですし、法律上問題となる論点を取り上げてかまいません。

例えば・・・2015年度のゼミ生の研究テーマ

- ・自炊代行訴訟…自炊（書籍の電子化）代行が問題となった判決の検討
- ・拡大集中許諾制度…孤児著作物（権利者不明の著作物）問題の解決に向けて
- ・ハイスコアガール事件…漫画におけるゲームキャラクター等の利用
- ・キャラクターの著作権…キャラクターに関する裁判例の分析

関連科目

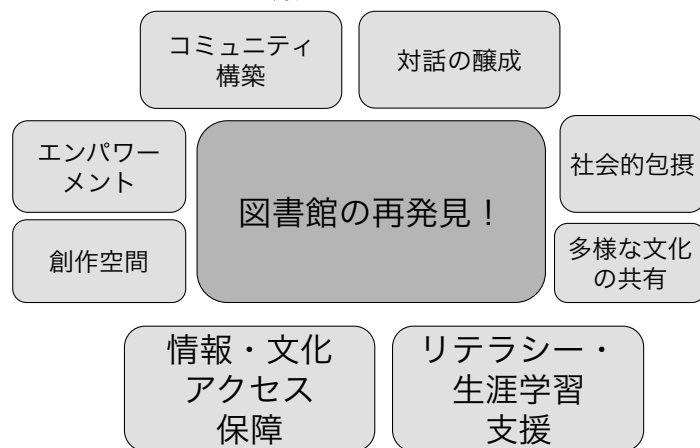
「知的財産概論」、「知的財産権論 A（・B）」、「情報社会と法制度」などの法律系科目が関連します。特に、「知的財産権論 A」では、裁判例や文献の調べ方などについて実践的に学ぶことができるので、この分野に興味のある方は、ぜひ履修してください。

詳しくは・・・ 研究室決めについて、卒業研究指導方針を参照してください。質問などがあれば、メールで連絡してください。

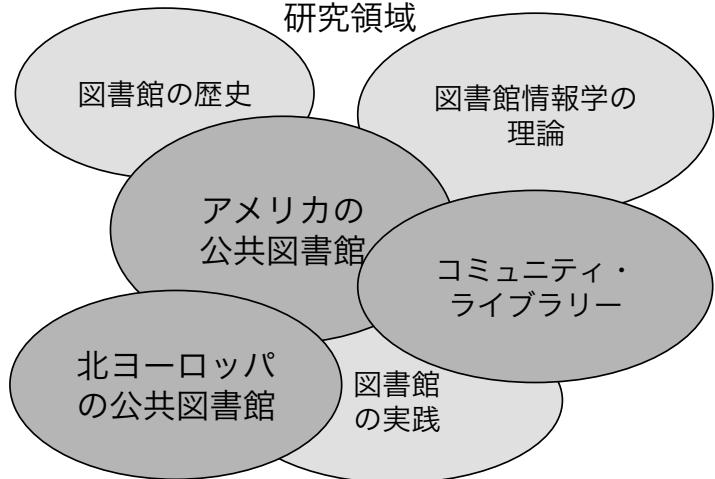
研究室紹介 吉田右子（研究室116） yyoshida@slis.tsukuba.ac.jp



研究デザイン



研究領域



研究テーマと研究方法

- (1) 生涯学習の空間としての公共図書館の役割に関わる実証的研究（フィールドワークに出かけます）
- (2) 公共図書館の理念および実践にかかわる歴史的研究（文献を使った地道な研究です）



研究室配属から卒研提出まで

12・1月	研究方法について学び、テーマをじっくり考えます
2月	研究テーマの確定・そしてミニ発表会
3月	春休みでゼミはお休み・リフレッシュ
4月	ゼミ再開・エンジンフル回転
5月	研究テーマとじっくり向き合います
6月	研究方法を確定して研究計画を立てます
7月	【着手発表会】・反省会・本調査
8月	夏休みでゼミはお休み・リフレッシュ
9月	ゼミ再開・本調査・目次を考えます
10月	【中間発表会】・執筆を本格的に開始
11月	猛然と執筆します！
12・1月	論文の総仕上げ・提出・【最終発表会】

卒業研究と進路

【卒業研究のテーマ】

- ・アメリカ・カナダの公共図書館におけるセクシュアルマイノリティに対するサービス
- ・北欧の公共図書館におけるIT利用支援サービス
- ・スウェーデンにおける移民・難民への図書館サービス
- ・オーストラリアにおける先住民族に対する公共図書館サービス
- ・ネパールにおけるNGOによる図書館設置活動の現状と課題

【主な就職先】

- ・横浜市立図書館・福島県立図書館・成田市立図書館・新潟市図書館
- ・名古屋大学・長崎大学・佐賀大学・東北大学
- ・東京消防庁・下仁田町森林組合



コミュニケーション理解研究室 Communication Understanding Laboratory

関 洋平
筑波大学 図書館情報メディア系
yohei@slis.tsukuba.ac.jp



研究室紹介

<http://cu.slis.tsukuba.ac.jp>

コミュニケーション理解研究室

Communication Understanding Laboratory

概要

コミュニケーション理解研究室では、人間の言語理解の過程を明らかにしつつ、人と人あるいはコミュニティをつなぐコミュニケーションの支援や、ソーシャルメディア上に現れる実生活において必要となる情報へのアクセス支援について研究を進めています。

2010年12月～
教員：1名
学生：6名
OB・OG：13名



研究分野

1. 情報アクセス
雑多な大量の情報の中から、利用者が必要な情報にアクセスする技術（検索・集約・推薦・抽出）の開発。
2. 自然言語処理
テキストに現れる言語情報を計算機で処理し、人間の言語理解を反映した応用を実現。

研究紹介

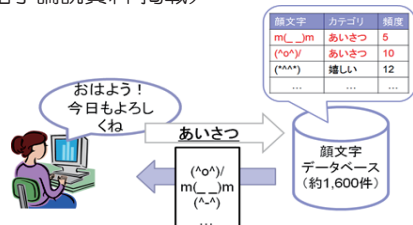
3つのタイプの研究を進めています。

1. ソーシャルコミュニケーション支援
2. ソーシャル情報アクセス
3. スマートソーシャルシティ

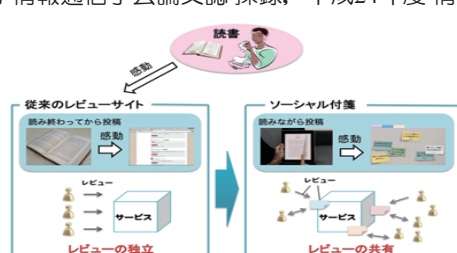
ソーシャルコミュニケーション支援

この研究では、ソーシャルメディアにおけるより使いやすいコミュニケーションのあり方を提案したり、新たなコミュニケーションサービスを提供するための研究を進めています。

1. 感情推定に基づく顔文字推薦システムの構築
(言語処理学会論文誌 採録, 情報処理学会 山下記念研究賞, 日本語学論説資料 掲載)



2. 読者の感性を発信・共有するためのソーシャル付箋の提案
(電子情報通信学会論文誌 採録, 平成24年度 情報学群長表彰)



3. Twitter 特有のコミュニケーション表現の抽出
(平成25年度 情報学群長表彰)
MILK 研究室紹介号

連絡先など

研究室Webサイト：<http://cu.slis.tsukuba.ac.jp>
電子メール：yohei@slis.tsukuba.ac.jp
教員室：7D棟（研究棟）2階 213号室
専門：自然言語処理, 情報アクセス
スマートソーシャルシティ
学生研究室：7D棟（研究棟）1階 140号室

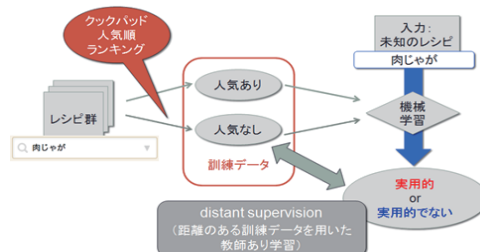
ソーシャル情報アクセス

この研究では、ソーシャルメディアに現れる多くの情報を利用して、クリエイターを検索したり、既存のサービスとは異なるランキング手法を提供するための研究を進めています。

1. 閲覧者による印象を考慮したイラスト投稿者の検索
(ACM SIGIR 2013 採録)



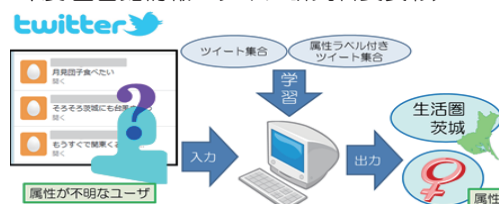
2. 人気レシピの内容的特徴に着目した実用的レシピの判別
(CEA 2014 採録, Best Paper Award)



スマートソーシャルシティ

この研究では、ソーシャルメディアユーザの情報を分析したり、オープンデータを活用することで、行政サービスの活性化を支援するための研究を進めています。

1. 半教師ありトピックモデルに基づく Twitter ユーザの地域推定
(情報処理学会論文誌 TOD 採録, 情報処理学会 IFAT ヤングリサーチャー優秀賞, 情報処理学会 DBS 研究会学生奨励賞, 平成25年度 図書館情報メディア研究科長表彰)



2. パブリックコメント投稿者を支援するための行政文書の分割
(平成26年度 情報学群長表彰)

自分の興味を見つける努力をしてください。
企業や自治体との研究交流を積極的に進めています。
(きざしカンパニー, NTT, 富士ゼロックス, つくば市役所等)

平久江研究室の紹介

研究領域は何か？

本研究室では、主に教育学と図書館情報学の学際的な領域を研究対象としています。学際的って何かというと、具体的には学校図書館の研究をメインに情報教育、公共図書館・大学図書館・博物館等との連携協力などがあげられ、更に国際的に視野を広げると非常に幅広い領域が含まれてきます。

研究対象は何か？

本研究領域のメインテーマの一つである学校図書館とは、学校図書館法に規定された図書館です。小学校から高等学校、特別支援学校、中等教育学校などに設置されており、学校種別によって、その規模も活用の仕方も大きく異なっています。日本では1990年代に入り学校図書館の現代化がすすめられて来て、学習センター、情報センター、読書センターとしての機能を備えた学校図書館へと変貌しつつあります。現在の学校図書館は、単なる読書の場としてではなく、学校の教育課程と密接につながる図書館活動を展開するようになっていきます。その担い手が司書教諭と学校司書という学校図書館の専門的職員です。したがって、学校図書館については、図書館経営、人材育成、連携協力、学習指導の支援などの様々なテーマが存在し、非常に奥深いものがあります。



研究ゼミの活動は？

本ゼミについては、週1回の全体ゼミを中心に新歓コンパ等の季節の行事や個別ゼミなどを行っています。週一回の全体ゼミでは、基本的に全員がそれぞれの課題に応じた発表と質疑・応答を熱心に行っています。ゼミ生は、これらの質疑を通して研究計画を修正し卒業研究を進めていきます。現在、本研



究室で日常的に活動するゼミ生は、学類生4名、博士前期学生5名、博士後期学生1名（他に社会人の博士後期の学生多数）おり、人数的にはかなり大きな数になっています。本ゼミのお得なところでは、共同ゼミ室404にゼミ生皆の机とパソコンが備えられています。

本ゼミの研究領域は、全国的に見ても非常にユニークです。一見地味ですが、それにじっくりと取り組んでみるのもまた一つの研究の在り方ではないでしょうか。



Extra

特別号

2015.10

研究室紹介号

Credit

- 発行者 長谷川秀彦(知識情報・図書館学類長)
- 発行日 2015年10月1日
- 編集部 菊池ゆとり 彼島瑞生 星穂波
- 執筆協力 知識情報・図書館学類 教員の先生方